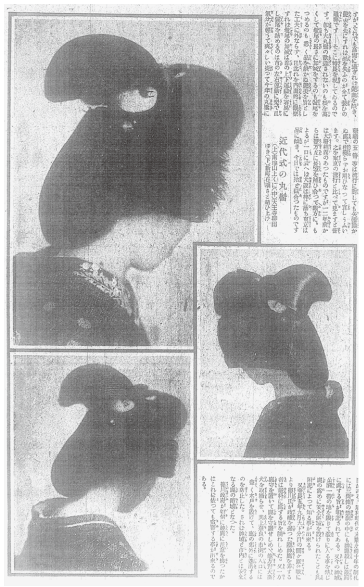
事　件

京市内に十数軒あり、これらに対する取締規定が作られた。現在勧工場は新橋と上野の帝國博品館、浅草仲店の商品陳列場の3軒を残すのみだが、取締規定は生きている。これに対して勧工場類似の三越白木屋のようなデパートメント・ストアにはなんの制約もない。そのため警視庁保安課では、勧工場取締規定を全廃し、代わってデパートメント取締規定を作成中で、4月からは施行の予定。〔東京日日 3/8(8)〕

3.25　度量衡統一調査委員会答申に基づく度量衡制の改正案が衆議院で可決された。すでに貴族院を通過しているので、不統一だった我が国の度量衡が欧米各国同様のメートル制に改まることとなった。ただし実施には相当の年月を要すると見られ、農商務省の委員に由れば、次年度の4月から実施時期には入るが、官公庁や大工場は5年以内、民間は20年以内に統一される見込みという。〔時事新報 3/26(11)〕



近代式の丸髷

『大阪毎日新聞』1921（大正10）年3月6日（日曜付録9）

4.11　度量衡法改正公布。メートル法の採用。〔法律 第71号〕 施行は1924（大正13）年7月1日。

4.15　羽仁もと子による自由学園創立。

4.　興行場及び興行取締規則公布。〔警視庁令 第15号〕

4.24　最初の社会主義婦人団体としての赤瀾会が、山川菊江、堺真柄らによって設立される。第2回メーデーへのはじめての女性の参加。

5.6　池田輝方没、39歳。日本画家。1913年より、ときには妻焦園とともに、東京日日新聞、東京朝日新聞に小説挿絵を描く。

6.2　水槽便所取締規則公布。汲取りではなく、浄化装置を備えた便所についての最初の規制。〔警視庁令 第13号〕

6.　26日夜、上京した宝塚少女歌劇団の、帝劇における最初の公演があり、大入り満員の盛況だった。見物の多くは年若い洋装の少女で、花の咲いたような客席だった。〔読売 6/28(4)〕

6.　大日本家政服改良会、‘最も理想的でハイカラな婦人仕事服’の宣伝。1着1円70銭。割烹着の原型の一つ。〔婦人世界 6月〕

7.　和服出勤禁止——“大阪市役所が新築落成になると共に、市役所に勤める人はことごとく洋服を着るべしと云う命令が出たというので、市役所の役人たちは大面食らい、……その命令の出た謂われは、新市役所の設計に下駄の脱ぎ場所を造るのを全く忘れていたので、この始末に困ったための苦し紛れから出た命令であるとか”。〔都 7/21(5)〕

7.　女子英学塾出身で、医学士高峯博氏夫人のひろ子さんが、夫と共著で『女性肉体美学』を刊行。博氏が生理学的方面から、ひろ子さんが美容、服

現　況

服でくつろがねばならぬようで軍人が勤まるかという意向が多かった。〔東京朝日 1/26(5)〕

2.　半襟の流行（色と模様）**（和装・新年）**——藤色から納戸へ小花から中花へ、七子織などどういう新しいものも出た。〔東京朝日 2/3(6)〕

2.　最初の活動俳優人気投票——“洋の東西を問わず目下各国の興味の中心となって居る活動写真趣味の養成に就いて本社が可なり長い間努力をして来た事は読者諸君の御存知の事と存じます、それに鑑み本社活動写真係は今回新聞界に前例のない世界的な企てとして読者諸君が見て一番上手な豪いと思う俳優の投票を募集します。……欧州、米国：悲劇（男優1名　女優1名）喜劇（男優1名）　日本：（男優1名　女優1名）……”。〔読売 2/13(6)〕

2.　地方の若い女性の顔色の悪さ——吉岡弥生女史の指摘。父親の十三回忌のため久しぶりに郷里静岡県掛川に帰省した女子医専校長の吉岡女史は、小笠郡の連合処女会主催の講演会で1,200人あまりの村の娘さん達に接した印象を次のように語った。都会の人に較べて真剣であると、また男女ともに顔色が悪いと思った。空気の清い、自然と親しめる田舎に住む青年や少女の顔色の悪さは、静岡県だけのことではないが、田舎の人は都会人より粗食に甘んじていて栄養が不足していること、そして地方の弊風が生んだ遺伝性の性病のせいではないかと考えられる、と。〔読売 2/27(4)〕

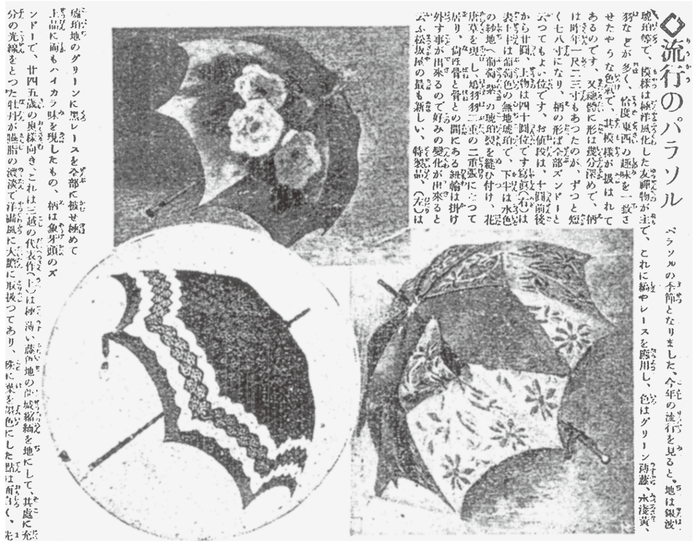
2.　流行防寒具のいろいろ**（和装）**——“今迄和服には毛皮などはあまり用いられませんでしたが、近頃コートの裏、羽織下などに用いられるようになりました”。〔婦人画報 2月〕

3.　この春は近代式の丸髷**（整容）**——“ツイ近年までは束髪が大流行で殊に軽らかなその形から外出勝ちの春のおぐしとしては最も全盛を極めて居ました。しかし何と申しましても束髪は矢張り過渡期の流行を越えず、その外型なども余りに平調で且つ重みも品も美しさも深みも足りませぬ。と云って蝶々と来てはホンの粋向き一方で万人向きには適わず、矢張り品の上から云っても形の上から云っても奥様方のおぐしには、高尚で優美で十人向きのする丸髷の時代が来たようでございます”。〔大阪毎日 3/6（日曜付録9）〕**＊図**

3.　春の流行いろいろ（1）**（洋装・かぶりもの）**——帽子と洋服〔読売 3/10(4)〕／同（3）**（和装・副装品）**半襟と手提げ〔読売 3/12(4)〕／同（4）**（洋装・副装品）**洋傘（パラソル）と洋杖（ステッキ）〔読売 3/13(4)〕／同（5）**（整容）**化粧品・小間物〔読売 3/14(4)〕／同（6）**（洋装・副装品・かぶりもの）**スカーフと子供帽子〔読売 3/15(4)〕／同（7）**（副装品）**新製の装身具〔読売 3/16(4)〕

3.　流行のパラソル**（副装品）**——“今年の流行を見ると、地は銀波琥珀等で、模様は極洋風化した友禅物が主で、これに縞やレースを応用し、色はグリーン薄藤、水浅黄などが多く、丁度東西の趣味を一致させたような色気で、其の模様が扱われてあるのです”。〔都 3/16(9)〕**＊図**

3.　中流婦人の所持する衣服数の目標**（和装）**——生活改善同盟会の提案した、年収2,500円程度の家庭における過渡期の婦人の標準所持数。同会の桜田節也夫人は語る。“此の度の発表で冬物はみな礼服も口綿にして、袷時は綿だけ抜いて間に合わせ、厳寒も全部下着で寒さを調節し、不経済な綿入を改めました”。〔報知 3/20(夕8)〕



◇流行のパラソル

パラソルの季節となりました、今年の流行を見ると、地は銀波琥珀等で、模様は極洋風化した友禪物が主で、これに縞やレースを應用し、色はグリーン薄藤、水淺黄、羽などが多く、恰度東西の趣味を一致させたやうな色氣で、其模様が扱はれてあるのです、又總體に形は幾分深めて、柄は昨年一尺二三寸もあつたのが、ずつと短く七八寸になり、柄の形は全部ズンドーと云つてもよい位です、お値段は、十圓前後から廿圓、上物は四十圓位です寫眞（右）は表上半は葡萄色の無地琥珀で、下半は水色の紗地へ葡萄染の琥珀裂を縫ひ付け、花唐草を現し、娘羽二重の二重張になつて居り、親骨と骨との間にある紐輪は掛外す事が出來るので好みの變化が出來ると云ふ松坂屋の最も新しい特製品、（左）は琥珀地のグリーンに黒レースを全部に被せ極めて上品に而もハイカラ味を現したもの、柄は象牙頭のズンドーで、廿四五歳の奥様向き、これは三越の代表作（下）は極淡い藤色地の[illegible]縮緬を地にして、其處に充分の光線をとつた牡丹が臙脂の濃淡で洋畫風に大膽に取扱つてあり、殊に葉を[illegible]色にした點は面白く、光

流行のパラソル

『都新聞』1921（大正10）年3月16日（9）

4.　華族の人口の減少——1919年末の東京市内に本籍をもつ華族の人口は2,842人で、10年前の1910年に較べると116人減少している。その一方士族および平民は非常な勢いで増加している。華族の所帯数は年毎に増加するのに人口が減ってゆく理由については、華族一般の生殖力の減退と、貧乏華族の子女が平民の富豪に嫁いだり養子縁組する結果であろうとみられている。〔読売 4/9(4)〕

4.　大阪の流行**（和装・春・夏）**——うす色　これが春から夏への動かぬ流行。“今年の春から夏にかけての流行は、どの店でも「うす色」という点だけは一致しているので、色合を選ぶ苦労だけは多少軽くなった”。〔大阪毎日 4/17 日曜付録(12, 13)〕

4.　小学生に洋服ふえる**（洋装・子ども）**——小学校児童に洋服や改良服がますます殖えてきたのは流行とも見られるが、文部当局はこれをよい傾向として喜んでいる。改良服を着るのは多くは女児である。女児で洋服を着るのは高価なものを見栄にするようなケースが多い。もっとも必要でしかも難しいのが女児の運動服だが、高女も含めてまだ理想的なものは生まれていない。〔都 4/18(4)〕

4.　洋服のプレスの宣伝**（洋装）**——東京京橋の東京製服（株）の新聞広告。“いつもしみの無い、型の正しいズボン、筋目のキッチリとした洋服は紳士のおたしなみです。僅か30分で瀟洒な洋服がお召しになれる米国ホフマンプレス最新機は、高熱の蒸気の迸出の力でクリーニングされ完全に